

BS-CS11 取扱説明書



注意 ご使用になる前に必ずお読みください。(本書は大切に保管してください)

■安全にご使用頂くために

本書では危険を伴う操作・お取扱について、次の警告記号を用いて重要な部分が一目で判るようにしています。内容を良くご理解の上で本文をお読みください。



警告

この表示を無視して、誤った取扱をすると人が死亡又は、重症を負う可能性が想定される内容を示します。



注意

この表示を無視した取扱をすると、人が障害を負う可能性が想定される内容及び物的損害の発生が想定される内容を示します。

●設置



注意

- VESA規格対応のディスプレイ以外には取り付けしないでください。本製品やディスプレイが落下し、怪我や破損の原因となることがあります。
- ディスプレイに取り付ける際は、机などの平らで安定している場所にディスプレイを置いて本製品の組み付け作業を行ってください。

●使用方法

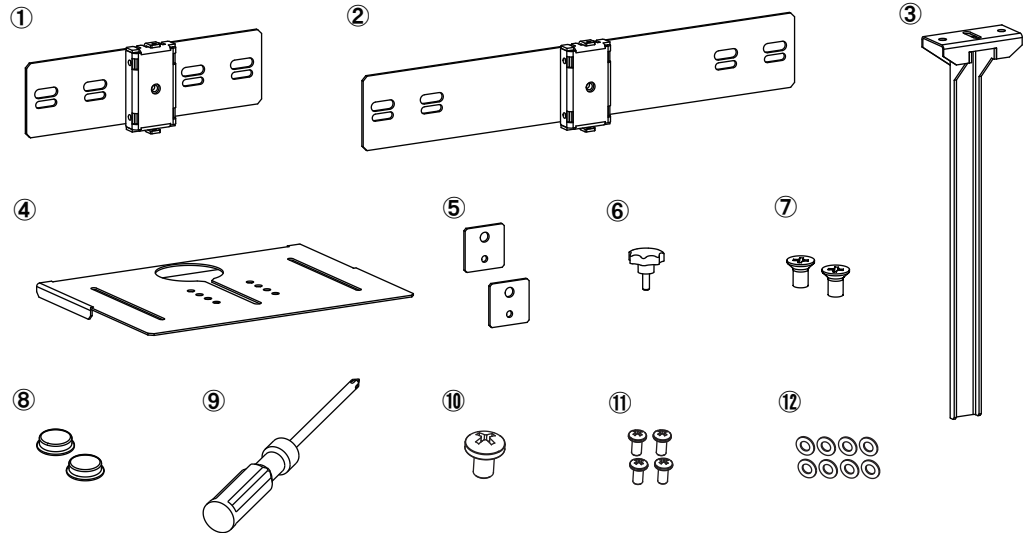


注意

- カメラテーブルの前後調整や高さ調整を行った後は、必ずネジの締め込みを確認してください。テーブル自体やテーブルに搭載した搭載物が落下し、怪我や破損の原因になります。
- カメラテーブルの耐荷重は5.0kgです。テーブル部へ耐荷重以上は搭載しないでください。

セット内容

番号	部 品 名	数量
①	VESA受け金具(小)	1ヶ
②	VESA受け金具(大)	1ヶ
③	昇降フレーム	1ヶ
④	カメラテーブル	1ヶ
⑤	スペーサー	2ヶ
⑥	フレーム固定ノブ	1ヶ
⑦	テーブル固定ネジ	2ヶ
⑧	パンポン	2ヶ
⑨	ドライバー	1ヶ
⑩	カメラ固定ネジ(大)	1ヶ
⑪	カメラ固定ネジ(小)	4ヶ
⑫	カメラ固定用ワッシャ	8ヶ



1. 組立手順

- ディスプレイ表示部を下にし、キレイな毛布もしくはクッション材の上に置いてください。(図1)
※弊社テレビスタンドに搭載されていたディスプレイに組み付ける場合は、テレビスタンドからディスプレイを取り外し、ディスプレイ背面からディスプレイ取付金具を取り外して作業を行ってください。
- ディスプレイ背面にある壁掛け固定用ネジ穴に合わせてVESA受け金具とスペーサーを配置してください。(図2)
※VESA受け金具はディスプレイ背面のネジ穴の横幅ピッチによって大小を使い分けてください。
横幅ピッチ100～200mmは金具(小)、横幅ピッチ300～400mmは金具(大)を使用してください。
※VESA受け金具には取付穴が2サイズあります。大きい穴がM6&M8ネジ用、小さい穴がM5&M4ネジ用です。
- テレビスタンドのディスプレイ取付金具をディスプレイとVESA受け金具を挟み込むように配置して、テレビスタンドに添付されているディスプレイ固定用ネジで固定してください。(図3)
- テレビスタンドへディスプレイを搭載します。
※ディスプレイの搭載方法はテレビスタンドの組立説明書を参照ください。

図1

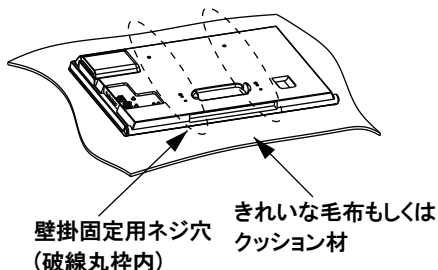


図2

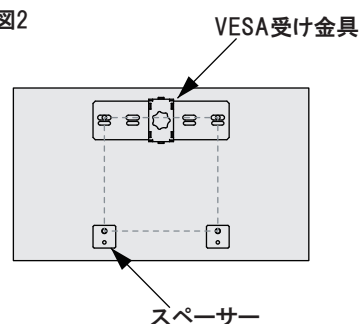
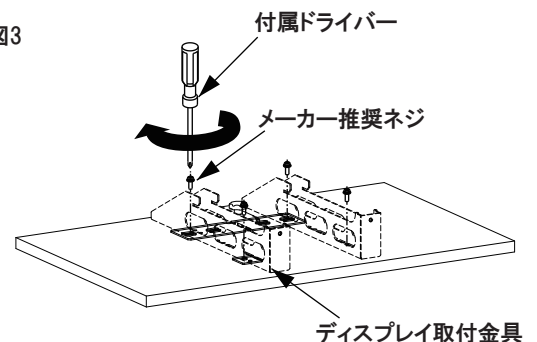


図3





注意

■しっかりと固定していない昇降フレームは、自由落下によって勢いよく下方向へ下がります。昇降フレームの取付・調節時はフレームを支え、自由落下をしないように作業を行ってください。

■VESA受け金具に昇降フレームを差し込みます。(図4)

■ディスプレイより少し上にフレームが出るように高さを調節し、背面からフレーム固定ノブで昇降フレームを固定します。(図5)

図4

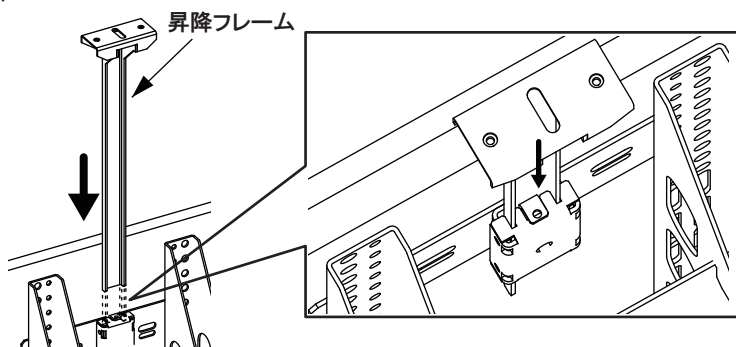
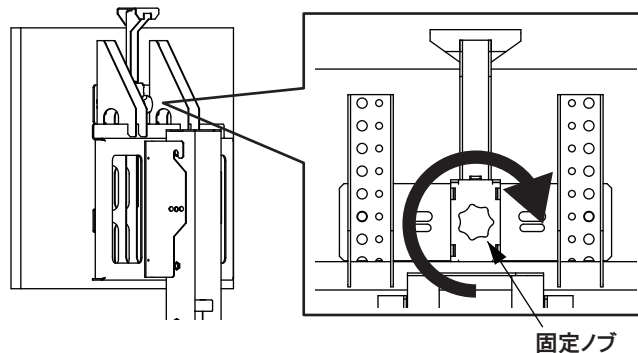


図5



■昇降フレームの天部ネジ穴にカメラテーブルの穴を合わせ、添付のテーブル固定ネジとドライバーで固定します。(図6)

※カメラテーブルは前後に15mmピッチで4段階調節が可能です。カメラが取り付けやすい位置でテーブルを固定してください。

■添付のカメラ固定用ネジを使用してカメラを固定して下さい。(図7)

※カメラ固定用ネジ(小)をお使いの場合には、必要に応じてワッシャをもう1枚追加してネジの長さを調整して下さい。

※カメラの機種によっては、付属のカメラ固定用ネジで取付ができない場合があります。

その際には、カメラに適したネジをホームセンターなどでお買い求め下さい。

図6

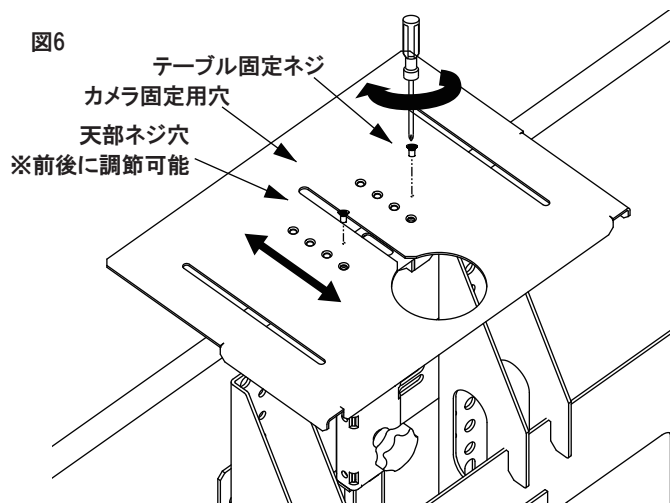
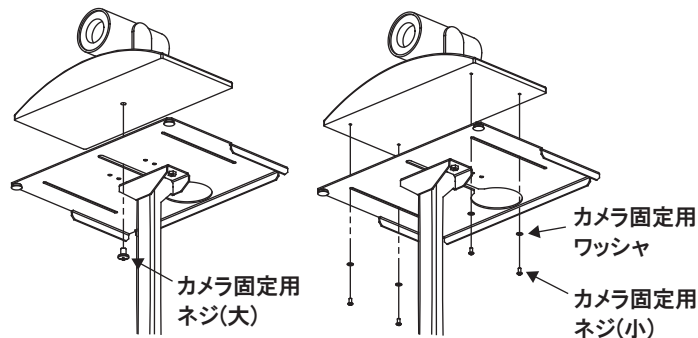


図7



カメラ固定用ネジ(大)使用例

カメラ固定用ネジ(小)使用例

■カメラ固定後に昇降フレームを調節し、ディスプレイの上端に合うようにテーブル位置を調整してください。(図8)

※添付のバンポンをカメラテーブルの裏面、もしくはディスプレイの上端部に貼ることで、カメラテーブルのガタツキやディスプレイへの傷つきを防止する事が出来ます。(図9)

図8

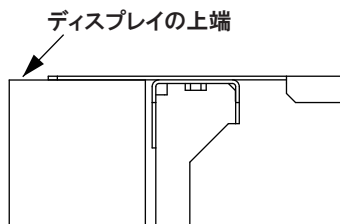


図9

